

佐久市新品目導入試験事業

平成29年度事業報告書



佐久市営農支援センター

1 新品目導入試験事業の目的と

平成29年度の事業の経過について

当事業は、新品目の農作物や新技術について、佐久市の気候や風土に合い、かつ経済性を発揮できるかの試験をし、適合する品目等において農業者へ普及を図るために、当佐久市営農支援センターが試験業務を受託し、佐久市跡部において事業を進めています。

本年度は本事業の受託7年目となり、引き続き「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」「新たな佐久市ブランド製品の育成」について、より普及拡大を目的として取り組みました。

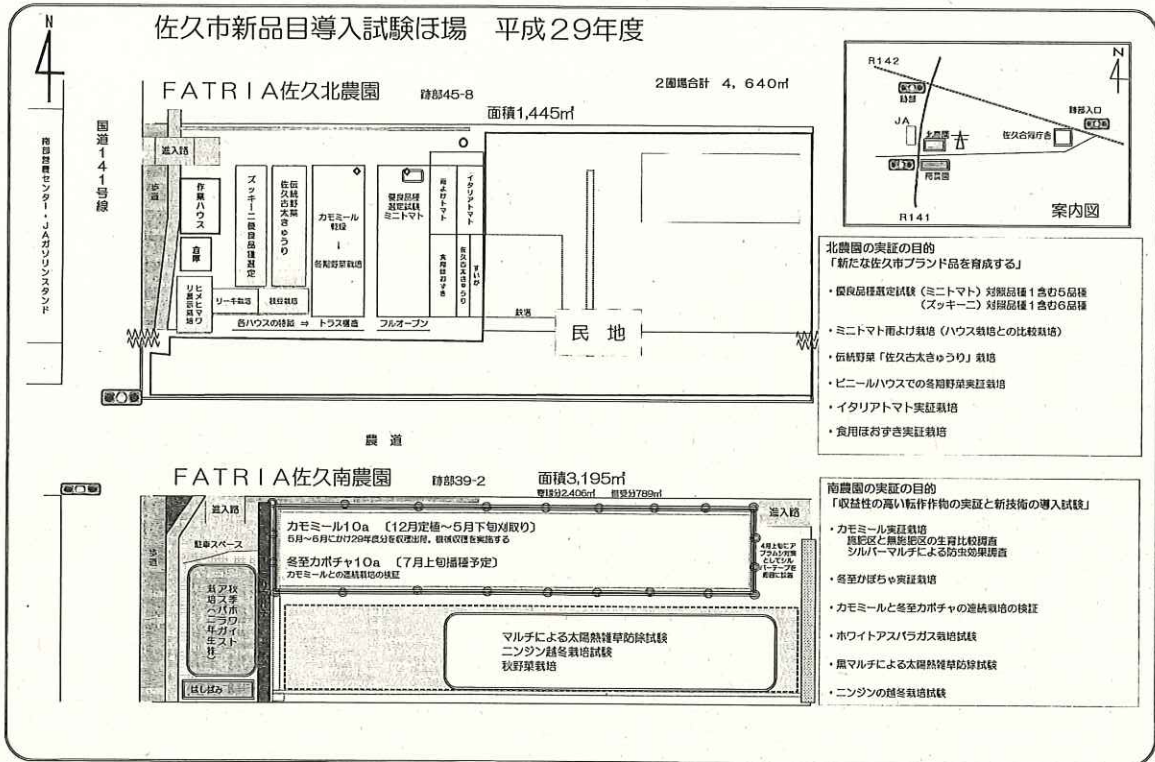
目標の1つ目である「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」については、米の消費低下や米価の下落が米生産中心の農業経営を直撃し、収益性の高い転作作物の導入はさらに重要度を増すなかで、カモミールや冬至かぼちゃなどの作物を実証することで、付加価値が高く 比較的取り組みやすい作物などについて検討を重ねてまいりました。

2つ目の目標としての「新たな佐久市ブランド品の育成」では、地域の特性に合いつつ、「佐久市らしい」農産物の実証栽培試験を行ってまいりました。

地域の主力農産物であるミニトマトとズッキーニの優良品種の選定試験の実施、保存会が立ち上がった佐久古太きゅうりの実証栽培、冬期間の葉物野菜の確保に向けた実証栽培を実施しました。

また、実証展示栽培で終わりとならぬよう、消費者の嗜好に合う加工や販売を見据えた6次産業化への取組の一環として、観光イベント等に合わせ、試験ほ場で生産された農産物や、普及推進を図ってきた農産物を組み合わせて試食イベントを行いました。

2 平成29年度新品目導入試験事業の概要



3 平成29年度に取り組んだ試験の内容について

I. 「収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験」

- ① 「カモミール」の栽培 10a
 28年12月上旬～29年8月上旬
- ② 「冬至かぼちゃ」栽培 5a
 7月下旬～10月下旬

II. 「新たな佐久市ブランド品の育成」

- ③ 伝統野菜「佐久古太きゅうり」の栽培展示と栽培講習会
 6月上旬～11月上旬 0.2a
- ④ 優良品種選定試験「ズッキーニ」
 8月中旬～10月下旬 0.3a
- ⑤ 優良品種選定試験 「ミニトマト」
 3月下旬～11月上旬 0.9a
- ⑥ イタリアトマト「シシリアンルージュ」の栽培試験
 7月中旬～10月下旬 露地栽培でのミニトマト生産実証試験 0.2a
- ⑦ ミニトマトの簡易雨よけを利用した栽培
 3月下旬～10月下旬 簡易雨よけを利用した栽培試験 計0.2a
- ⑧ ホワイトアスパラガスの実証試験
 9月上旬～10月中旬 1a
- ⑨ 冬期のハウス栽培実証試験（ハウレンソウ、アスパラ菜、ちょうほう菜、てごろ菜、葉大根、春菊）
 12月上旬～3月中旬
- ⑩ マルチ被覆による太陽熱雑草防除試験（ニンジン、コマツナ、ハウレンソウ）
 5月中旬～10月下旬

Ⅲ. 「試験品目及び推奨品目の普及活動」

各イベントに合わせた、栽培品目や市内産農産物のPR活動について

- ・ イベント名 : バルーン係留搭乗体験
場 所 : 市民交流広場
実施日、PR 野菜、PR 人数
: 7月15日 佐久古太きゅうりとニンジンとミニトマト → 142名
: 8月12日 佐久古太きゅうりとパプリカとミニトマト → 208名
: 9月 9日 スッキーニとイタリアトマトとパプリカとナス → 104名

- ・ イベント名 : 佐久市農業祭
実 施 日 : 11月11日
PR 野 菜 : リーキ・長者原キャベツ・イタリアトマト・白土馬鈴薯のスープ
(市内産農産物のPR)
PR 人 数 : 200名

佐久市新品目導入試験事業講演会の開催

開 催 日 : 2月20日

内 容 :

- ・ 新品目導入試験ほ場での試験概要について (佐久市農政課)
- ・ 新品目導入試験ほ場「マルチ被覆による太陽熱除草方法」の試験結果について
(佐久農業改良普及センター)
- ・ 農業経営計画支援システム「AGRIX NAGANO」を活用した経営品目最適化シミュレーションについて (佐久農業改良普及センター)
- ・ 講演会

演 題 「行列ができる農産物直売所の売れ筋商品」

講 師 上田市丸子農産物直売加工センター「あさつゆ」組合長 伊藤良夫 様

参加者数 : 47名

カモミール（実証展示栽培）

栽培期間 平成28年10月～平成29年8月

品 種 ジャーマンカモミール（出荷先指定）

施肥・栽培管理

株間 30 cm 畝間 45 cm

黒マルチ

元肥 堆肥 2,000 kg/10a

発酵鶏糞 180 kg/10a

栽培経過

平成28年 10月 播種（JA育苗センター）

12月2日 定植 6,500株

平成29年 4月22日 シルバーテープ張り（アブラムシ対策）

5月30日 刈取り（バインダー収穫）

～8月 3日 乾燥・細断

8月 3日 出荷

試験結果

収穫量（乾燥重） 351 kg 前年比 103%

作業時間 定植 3時間、作業人数 8人

刈取り 6時間、作業人数 14人

乾燥 約12週間

細断、出荷 3時間、作業人数 10人

考察

播種～育苗に関してはJA育苗センターへ委託して、播種機によるセルトレイ播種をしている。発芽後に、間引き作業を行い調整した。

定植は、手植えでの作業を行った。

5月ころでも草丈が伸びないでいたため、動力ポンプによる灌水を行った。収穫時には、60 cm程度まで草丈が伸びた。

バインダーによる収穫の機械化については、刈取り作業はかなりの時間短縮につながっている。しかし、結束を手作業で行っており、改善の余地があると考えられる。

乾燥から細断については、ハウス内での吊るし乾燥し、送風機によりハウス内の空気を攪拌して乾燥を実施した。梅雨の降雨期間が長かったことから細断に適した乾燥するまで期間を要し、細断を8月に行った。細断は剪定枝用のチップパーにより、良好な結果であった。

平成27年度には、JA佐久浅間内に「カモミール研究会」が発足している。



↑ 4/18 開花前



↑ 5/12 開花



↑ 5/30 刈取り

次年度における試験項目

今まで、「全面マルチ」による雑草対策を行ってきたが、農家の所有率がより高い「平うねマルチ」による雑草対策を行い栽培を行う。

元肥の量を増加し、草丈の伸びを促進させるような技術確立する。

4月、5月が少雨の場合、生長が緩やかであることから、用水からの灌水により生長を促せるよう栽培管理を行う。

冬至かぼちゃ（実証展示栽培）

栽培期間 平成29年 7月～10月

品 種 栗五郎（カネコ種苗）

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm

白マルチ

元肥 BB-042 8.0 kg 炭苦土 6.2 kg

栽培経過

7月 10日	施肥・うね立て
12日	播種 100粒
8月 24日	マット敷き
10月 11日	収穫
	キュアリング
12月 13日	出荷

試験結果

1果どり（12節～14節の果実）

収穫量サイズは（M：4個、L：10個、2L：38個）

農業祭で、煮つけて、試食品を提供

（H28は、ポターージュにして農業祭で提供）

（H27キュアリングを実施しないものを、農業祭で食味調査）

（H26はキュアリングを約2週間実施後に、農業祭で食味調査実施）

考察

水田転作の有力品種として「冬至かぼちゃ」の栽培を実施した。

カモミール収穫後にほ場を耕起、施肥し、かぼちゃを播種し、栽培をした。

播種後、降水量が少ない影響もあったせいか、100粒中62粒と発芽率は悪かった。

カモミールが全面マルチによる栽培をしていたことから、雑草の発生が少なく、果実が日焼けの被害を受けるものが発生した。



↑ 播種後 30 日



↑ 播種後 50 日



↑ マット敷き

次年度における試験項目

カモミールとの輪作体系化を図るとともに、仕立てや植栽密度による作業効率の向上を目指した実証試験を実施していく。

市内出荷物で出荷後にクサレが出たものがあったとのことから、佐久地域での冬至用カボチャの品種について、栗五郎以外の品種の試験栽培を行い、佐久地域に適した品種の検討を行う。

佐久古太きゅうり（実証展示栽培）

栽培期間 平成 29 年 5 月～10 月

品 種 佐久古太きゅうり（信州の伝統野菜）

施肥・栽培管理

株間 100 cm 畝間 90 cm×10m

白マルチ

元肥 堆肥

浅間野菜化成 2.0 kg

サンライム 2.0 kg

ようりん 1.2 kg

追肥 化成肥料（8-8-5）

害虫防除については、慣行のきゅうり栽培どおり

栽培経過

5 月 1 日 播種

22 日 定植（8 本）

6 月 28 日 収穫開始

10 月 5 日 収穫終了

栽培結果

収穫量 1,930 果（苗 1 本あたり 241 果）

栽培希望者への苗の配布と栽培講習会の実施（5/23～25、60 グループ、600 本配布）

（仕立て方法や、管理方法についての講義）

考察

試験ほ場の平成 23 年度から継続して実証展示栽培と、栽培者を増加させるための取り組みを実施している。栽培希望者や野菜栽培講習会の参加者へ講義を行うための栽培にしている。

今年度は雨が多かったため、うどん粉病等の病気が多く発生したため、定期的に防除を行った。

樹勢が旺盛で、果実が小型であるため、葉の整理を怠ると取り忘れの果実が肥大化しやすい。

また、収穫の後半（9月中旬以降）になると、不受精の変型果や空洞果の発生が多くなるため、断面の形状が丸みを持った四角形から三角形に変わり始めたら、良品は減少する。

「佐久古太きゅうり保存会研修会」が平成 30 年 2 月 19 日に開催され、「栽培の歴史」を市農政課より、「活用方法」を望月駒の里バリューアップ研究会より、「栽培技術」を佐久農業改良普及センターより、「信州の伝統野菜認定制度」を佐久地域振興局農政課より、講師をしていただき、研修会を開催しました。

平成 29 年度に「佐久古太きゅうり保存会」が信州の伝統野菜の伝承地栽培認定を受けました。この機会をとらえ、生産者の増加、販売量の増加につなげていきたい。



↑7/15



↑7/15



↑9/1

次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の栽培を実施する。

栽培グループが組織され、信州の伝統野菜伝承地栽培に認定されたことから、更に普及していくよう、展示栽培を行い栽培者の増加、生産量の増加に努めていく。

ズッキーニ（優良品種選定試験）

栽培期間 平成29年 7月～ 10月

品 種 ゼルダネロ（対照品種）、TSX-710Z、KZパワー、KAQ-011、
ヴェルデ、TZ-9

施肥・栽培管理

株間 80 cm 畝幅 180 cm 2 畝

白マルチ

元肥 BB042 5 kg

ようりん2 kg

炭苦土6 kg

栽培経過

7月12日 播種

8月16日 収穫開始

9月19日 優良品種調査

10月26日 収穫終了

試験結果

別紙試験結果表のとおり

考察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品目であるズッキーニについて、樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のゼルダネロを含む 6 品種での試験を行った。

作柄は、8月中旬からの候雨で病害が発生し、収量は平年以下の結果となった。

今回の試験では、KZパワーとTZ-9 が最も病気に強く、次いでゼルダ・ネロということになった。

結果としては別表のとおりであり、次年度は 2 品種を再検討することになった。



↑8/2



↑9/1



↑9/19 品種選定試験

次年度における試験項目

次年度においても、市内農産物のうちでも主力品種であるため、継続して行う。

調査を実施する9月中旬が収穫の最盛期となるように、作期の調整を行う。

ズッキーニ優良品種選定試験結果表

佐久市内で多く生産されている品種のゼルダネロを対照品種として、耐病性並びに収量性・商品性について調査

品種名	総合評価	H29 年度再検討	H29 年度実用
対照 ゼルダ・ネロ	—	—	—
TSX-710Z	劣る		
KZパワー	同等	○	
KAQ-011	劣る		
ヴェルデ	劣る		
TZ-9	同等	○	

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

各品種の特記事項

TSX-710Z 草勢が強く、葉が繁茂しており収穫しづらい。
果実はやや太く揃いも良くない。

KZパワー 草勢強く、収量性も高い。
病害にも今回の試験した品種の中で最も強いと思われる。
果皮色がやや淡いのが欠点。

KAQ-011 モザイク病とうどんこ病が発生した。

ヴェルデ うどんこ病多発。果皮色も淡い。

TZ-9 発芽が悪く、ポットに撒き直した。
立性で倒伏しづらい。葉が開いており収穫は容易。
果皮色も濃厚で商品性も高い。
収量は、既存品種と比べやや劣るか？

ミニトマト（優良品種選定試験）

栽培期間 平成29年 4月～ 10月

品 種 サンチェリーピュア（対照品種）、TTM-117、AMS-200、
MST-1201、L13-114、アンジェレ、ロツソアモーレ

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm×18m

白マルチ

元肥 特肥いきいき混合(4-6-3)20 kg なたね粕 10 kg 炭苦土 20 kg

FTE 1.5 kg ジャンプ有機(6-3-1)13 kg

栽培経過

3月24日 播種

4月14日 施肥

5月10日 定植

22日 定植

7月27日 収穫開始

8月7日 現地研修会

8月7日 第1回優良品種調査

9月19日 第2回優良品種調査

11月9日 収穫終了

試験結果

別紙試験結果表のとおり（再検討品種が2品種）

その他品種については、継続および検討外

考察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品種であるサンチェリーピュアより、耐病性に選れ、なおかつ食味や樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のサンチェリーピュアを含む 6 種類での試験を行った。

結果としては、別表のとおり。

2 品種は次年度再検討することになった。

また、その他の品種も出荷適正ではやや難点がありつつも、食味や色合いなどで選定品種を上回るものもあり、契約栽培などでは優位販売が見込まれるものもあった。

耐病性については、試験補では病害の発生はほとんどなく、耐病性の比較はできなかった。

黄化葉巻病の発生がなく、耐病品種における優位性も感じられなかった。



↑ 6/10



↑ 7/15



↑ 9/19 品種選定試験

次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の試験を実施するが、前述のとおり今後問題となってくることが見込まれる病害や、栽培技術に関する試験も検討していく必要がある。

ミニトマト優良品種選定試験結果表

佐久市内で多く生産されている品種のサンチェリーピュアを対象品種として、
耐病性並びに、収量性・商品性について調査

品種名	総合評価	H29 年度再検討	H29 年度実用
(対照) サンチェリーピュア	—	—	—
TTM-117	同 等	○	
AMS-200	同 等	○	
MST-1201	同 等		
L13-114	劣 る		

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

各品種の特記事項

TTM-117 草勢強く、複果房の発生が前半は多かったが、後半は単果房が多くみられた。これは追肥のタイミングがやや遅れたものと思われる。肥培管理に注意を払えば、収量性は高い品種と思われる。
果実も大きい。裂果の発生がやや多い傾向。
糖度は対照品種より高いが、食味は味が薄く水っぽい

AMS-200 今回試験した品種の中で最も食味が良かった品種。
糖度も安定して高く、味も濃い印象。
果実がやや小さいため収量性がやや低い、裂果が多いことが難点。

MST-1201

花とびが多く、収量が上がらない印象。

糖度は高いが味が薄く、食味がよくない。

L13-114

果実が大きく、中玉トマトに近い。花とびも多い。

糖度は高く食味は良い。裂果は多かった。

イタリアトマト（実証展示栽培）

栽培期間 平成 29 年 5 月～29 年 10 月

品 種 シシリアンルージュ

施肥・栽培管理

株間 50 cm 畝幅 90 cm×5.5m

マルチ 白マルチ

元肥 特肥いきいき 2.5 kg 炭苦土 3.0 kg なたね粕 2.0 kg

栽培経過

5 月 12 日 播種

6 月 28 日 定植

9 月 1 日 収穫開始

10 月 30 日 収穫終了



↑ 7/15 生育初期



↑ 9/1 収穫期



↑ シシリアンルージュ

結果

平成 25 年度より継続して実施しており、佐久市内でのイタリア野菜普及のための足掛かりとされている品目である。今回は 1 本仕立てでの栽培。管理は容易であるが収穫量は少なくなった。

雨に当たると、裂果してしまうため、雨よけ施設がある方が良い。

市の農業祭のスープのベースとして提供した。リコピンやプロリンなどの抗酸化物質の含有量が豊富な高機能トマトである点と、生食・加熱の両方に向けた使い勝手の良いトマトである。加熱すると「味が濃い」「うまみが強い」などの利点を出した戦略がある。

雨よけミニトマト（実証展示栽培）

栽培期間 平成 29 年 6 月～29 年 10 月

品 目 サンチュリーピュア、AMS-200、ロツソアモーレ

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 90 cm×5.5m

マルチ 白マルチ

元肥 炭苦土 2.5 kg 特肥いきいき 5.0 kg ダブリン 1.3 kg

栽培経過

6 月 1 日 定植

8 月 2 日 初収穫日

10 月 31 日 収穫終了



↑ 7/15



↑ 8/2



↑ 10/11

結果

強風により、雨よけ施設が移動してしまったため、斜め誘引栽培からつるし上げ栽培とした。

つるし上げの方が葉の整理、収穫ともに作業は行いやすかった。

雨よけによるミニトマトは、大粒となり割れも少なかった。

食味はハウス栽培と比較すると味が薄く水っぽく感じられた

ホワイトアスパラガス（実証展示栽培）

栽培期間 平成 29 年 9 月～29 年 10 月

品 種 ウェルカム

施肥・栽培管理

畝幅 90 cm×17m 2 畝

被覆材 遮光シート

追肥 さく浅間野菜 1 号

栽培経過

9 月 13 日 遮光シートの被覆

9 月 19 日 収穫

10 月 13 日 収穫終了



↑9/1



↑9/19 遮光時



↑ホワイトアスパラガス

結果

露地栽培においても、遮光シートによりホワイトアスパラガスが栽培することができた。

強風によりシートがめくりあがることもあり、日光が入ると緑化してしまい、遮光シートがめくりあがらないよう注意を払いながら管理することが重要である。

株養成が十分でなかったため、出荷規格となるものの収穫は少なかった。

冬期間ビニールハウスでの葉物野菜栽培（実証展示栽培）

栽培期間 平成 29 年 11 月～30 年 4 月

品 目 ホウレンソウ、アスパラ菜、ちょうほう菜、てごろ菜、
葉大根、スティックシュンギク

施肥・栽培管理

畝幅 60 cm×10m ①11/27 播種有孔ビニールシートと防寒シートの 2 枚による防寒対策
60 cm×10m ②12/1 播種 有孔ビニールシートの 1 枚による防寒対策

元肥 堆肥 40 kg 炭苦土 5.0 kg 化成肥料（あさま 1 号） 5.0 kg

栽培経過

平成 29 年 11 月 27 日 播種 平成 29 年 12 月 1 日 播種

2/4 の生育状況	① 11/27 播種 (70 日目)	収獲	② 12/1 播種 (67 日目)	収獲
ホウレンソウ	草丈 20～23 cm	○	草丈 18～20 cm	△
アスパラ菜	草丈 25～30 cm	○	—	—
ちょうほう菜	草丈 15～16 cm	○	草丈 15 cm	△
てごろ菜	草丈 18～20 cm	○	草丈 15 cm	△
葉大根	草丈 22～25 cm	○	草丈 15 cm	△
スティック シュンギク	草丈 10～12 cm	×	草丈 5～7 cm	×



↑ 12/11 発芽



↑ 2/13 シート被覆



↑ 2/14

結果

同時期に播種して 2 つ方法で防寒対策により栽培した。栽培期間中の最低地温は 2℃。

1 枚のみでの防寒対策の方が生育スピードは遅いが、品質上問題はなかった。

マルチ被覆による太陽熱除草試験

栽培期間 平成29年 5月～ 6月

作付品目 ニンジン

(秋作：播種7月上旬 収穫10月、越冬作：播種8月上旬 収穫3月下旬)
ホウレンソウ、コマツナ

(秋作：播種9月上旬 収穫10月、越冬作：播種10月上旬 収穫4月)

使用資材 黒マルチ、透明マルチ

処理時期

マルチ被覆 5月上旬、6月上旬、7月上旬、8月上旬の4回

マルチ被覆期間 30日、45日、60日

- 調査内容
- ①雑草発生量・草種：マルチ被覆除去15日後
 - ②マルチ内地温：「おんどとり」による地表面の地温計測
 - ③マルチ除去後の露地野菜栽培と雑草の影響

結果

マルチ内地温調査

期間	被覆日数	マルチ種類	50℃以上日数	50℃以上積算時間	50℃以上積算地温	40℃以上積算地温	雑草発生状況
5/1～5/31	31	黒	19	96	5668.9	8150.6	多
6/1～7/3	33	透明	12	35	1822.4	7185.2	無
7/11～8/16	36	黒	12	44	2513.7	7934.4	少
8/17～9/19	34	透明	18	75	4155.7	8667.6	無

- 5月被覆黒マルチは被覆期間に関係なく雑草が多発生した。
- 7月被覆黒マルチは被覆期間 36 日で雑草の発生がみられたが、同 55 日では雑草の発生はなかった。
- 6月及び8月被覆の透明マルチは、雑草の発生がなかった。
- 8月被覆の透明マルチを除去しないと、10 月以降畝の肩部から雑草が発生した。

考察

ア 「5月被覆黒マルチ」

- 日中 70℃を超える地温も観測されたが、64 日間被覆でも雑草種子が死滅しなかった原因は、休眠覚醒した種子であれば効果のある積算地温に達しても、土壤の乾燥と黒マルチによる光の遮断等の理由により、雑草種子が休眠覚醒しなかったのが原因と推測される。

イ 「6月被覆透明マルチ」

- 天候に恵まれ 33 日被覆でも十分な効果が確認できた。最も高温耐性のあるスベリヒユ種子の死滅は、40℃以上の積算地温で約 7000℃と推察される。

ウ 「7月被覆黒マルチ」

- 7月下旬の天候不順もあり、36 日被覆では 40℃以上の積算地温約 8000℃でも足りず高温耐性に強い雑草が発生したが、55 日では十分な結果が得られた。この時期に黒マルチで必要とされる積算地温は透明マルチより多く必要であり、被覆期間も長くなる。
- 雑草種子の耐熱温度は草種により差があり、スベリヒユは最も高温に対する耐性が強い。畝間の雑草種から耐熱温度が高い順に、スベリヒユ>イヌビユ・イヌホオズキ・アカザ>メヒシバ・イヌビエ>イヌタデ・カモミール・ハキダメギク・ヒメジオンと考えられる。

エ 「8月被覆透明マルチ」

- 通路部や畝間に発生した雑草を防除しないと、マルチ被覆部に覆いかぶさり地温が上がらない原因となる。そのため10月以降マルチ内に雑草が発生してしまい、通路部や畝間の除草が今後の課題である。

オ 被覆期間の目安

- 6月～9月上旬に行う場合、透明マルチで約 40 日、黒マルチで約 60 日である。

リーキ【ポロネギ・西洋ねぎ】(実証展示栽培)

栽培期間 平成29年 6月～ 11月

品 種 メガトン

施肥・栽培管理

株間 15 cm 畝間 110 cm×10m 2本

元肥 炭苦土 3.5 kg 化成肥料 (8-8-5) 3.5 kg

栽培経過

6月20日 定植

追肥

土寄せ (3回)

11月 8日 収穫

結果

定植後、約4か月で収穫ができた。

樹勢が強くなるため、追肥が必要。

考察

平成 23～24 年度に試験栽培を実施して、JA 佐久浅間にリーキ部会が発足している。

近年は、生産量が減少傾向しているとのこと。佐久市内での栽培を普及していきたい品目である。

土寄せの際に、葉しょう部に土が入ると軟白の部分に土が残ってしまうため、注意が必要である。

国産リーキの引き合いは、高い傾向にある。

一般消費者にも、徐々に認知されてきており、直売所等でも見かけるようになってきている。

しかし、まだ食べ方提案とともにした販売が必要である。

日本のネギと違い、加熱調理により食することができるネギであり、加熱により甘みと風味が出る。



↑ 7/15 生育初期



↑ 9/1 生育中期



↑ 10/11 生育後期

次年度における試験項目

継続して、実証展示栽培をしていきたい。

パプリカ（実証展示栽培）

栽培期間 平成 29 年 5 月～29 年 10 月

品 種 赤系（スペシャル）黄系（フェアウェイ）どちらも苗からの栽培

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 90 cm×17.5m

マルチ 白マルチ

元肥 特肥いきいき 20 kg ジャンプ有機 13 kg なたね粕 10 kg

炭苦土 20 kg 微量元素複合肥料（FTE） 1.5 kg

栽培経過

5 月 2 日 施肥

7 月 12 日 収穫開始

10 月 23 日 収穫終了



↑6/10



↑7/15 誘引の様子



↑10/5 寒さ対策

結果

実証展示及び野菜栽培講習会用の展示講習用栽培で、平成 24 年度から栽培を継続している。

長野県農業試験場からの技術情報にある「2本仕立て」による栽培を実施する。4本仕立てより管理が容易である

チップバーンが発生したため、カルシウムを散布する。良品の収穫できた。

10月に低温の日が続いたため、寒さ対策で栽培棚をビニールで多い、対策した。

普及推進作物PR活動について

栽培品目、推奨品目を使用した試食の提供やレシピの配布を実施した。

7月15日、8月12日、9月9日 熱気球体験搭乗イベントに合わせた、農産物PRとスープの提供



↑熱気球体験搭乗会場



↑佐久古太きゅうりの試食提供



↑佐久市産農産物PR

11月11日 佐久市農業祭で「佐久市産農産物スープ」の提供



↑農業祭のスープ提供

原材料

イタリアトマト、リーキ、長者原キャベツ、パプリカ、にんじんのスープ

観光イベントに合わせて市産農産物を使った料理の提供により、親子や多くの方に味わっていただき、PRを行うことができた。佐久市の特産農産物や、イタリア野菜をはじめとした新品目野菜の利用や購買に積極的な年齢層の方に美味しさや、高機能性を紹介することができた。

今後これらのPR活動を継続することにより、より多くの市内外の購買者を増やせるものとする。

「佐久市新品目導入試験事業講演会」

上田市丸子農産物直売加工センターあさつゆの伊藤良夫組合長による講演会と試験ほ場の試験の概要と試験ほ場で実施したマルチ被覆による太陽熱除草方法の試験結果、農業経営計画支援システム AGRIX NAGANO を活用した経営品目最適化シミュレーションについてを佐久市役所南棟 3 階会議室において実施した。

実施日 30 年 2 月 20 日 佐久市役所南棟会議室 参加者 47 名



「行列ができる農産物直売所の売れ筋商品」と題した講演会には農業関係団体関係者や一般の方を含め、47 名の参加者に講演会を実施し、直売所経営の経験から様々なデータを用いて、今までの取組について講演がされました。

(アンケート結果は別紙)

新品目導入試験事業講演会アンケート集計(26名)

I 今回の講演会は皆様の参考になりましたか？

1	大変参考になった	9
2	参考になった	15
3	あまり参考にならなかった	2
4	まったく参考にならなかった	0
5	その他	0
	無回答	0

II 開催時期についてはいかがでしょうか

1	ちょうど良い	20
2	もっと早いほうが良い(12月中旬～1月中旬)	3
3	早いほうが良い(1月下旬～2月中旬)	3
4	もう少しだけ早いほうが良い(2月下旬～3月上旬)	0
5	もう少し遅いほうが良い(3月下旬)	0
	無回答	0

III 新品目導入試験ほ場事業で取り組んだ方が良いと思うものはありますか？

1	イタリア野菜などの新しい品目(新品目の栽培特性試験)	2
2	伝統野菜や地域独自の品目の試験(地域色豊かな作物の栽培)	4
3	ミニトマトやスッキーなどの一般栽培野菜についての新しい技術(新技術の普及)	3
4	水田転作が可能な作物の探索(水田転作の推進)	2
5	定期的な栽培講習会や、機械・技術などの実演会(その他)	4
6	生産者への販路のあっせんや商談会などの実施(販路拡大活動)	4
7	佐久市産農産物の販売促進(PR活動)	1
8	その他	0
	無回答	2

IV 今回の講演会についてはいかがでしたか？

1	満足	11
2	やや満足	11
3	ふつう	2
4	やや不満	1
5	不満	1
	無回答	0

1の理由

特に実践の事例(上田 丸子直売所)の話が良かった。
 データーがあり損益まで見える
 直売所の仕組み等参考になった。
 他の直売所の実態を知ることによって自分の状況を変えようと思った。
 データーの蓄積の量と毎年の積み重ねが素晴らしいと思った。

2の理由

あさつゆの話が参考になった。
 農業経営計画支援システムがよく分からない。
 数字をしっかり使うことが重要だと理解できた。
 参考になる資料がもう少し欲しい。

3の理由

地域の土壌の事が聞きたかった。
 マルチの特性等の説明が欲しい。もう少し時間が欲しい。

5の理由

小規模農家の増収方法も考えて欲しい。

VI その他、ご意見

- ・いろいろと新しく参考になる話ではあったが、事業について知らない人が多いのではないかと思う。
- ・広くPRして参加する人が増えるようにしていただきたい。
- ・あさつゆの話が役に立ちました。ありがとうございました。
- ・試験事業の取り組みについて成果の発表が必用(トマトの糖度 病害虫の対策)
- ・丸子直売所データーがしっかりしていて大変参考になった。
- ・野菜の売り上げデーター等は大変参考になる
- ・農業経営計画支援システムについての資料が配布されていないので内容がよく分からない
- ・マルチ被覆とAGRIX NAGANO件、一人ひとりに資料等があれば、ものすごくよかったと思う。
- ・佐久の道の駅の去年の実績を知りたい。

実施主体 : 佐久市営農支援センター

住 所 : 佐久市中込3056

電 話 : 0267-62-3203

F A X : 0267-62-2269